

南信州広域連合第6回広域連合会議 結果報告

日時：平成26年9月12日(金)14:09~15:12

場所：長野県飯田合同庁舎 502・503 会議室

1 開 会…14:09

【出席者】14市町村長（天龍副村長）

〔下伊那地方事務所〕有賀所長・松田副所長・丹羽地域政策課長・石田リニア推進幹

〔飯田保健福祉事務所〕北澤副所長

〔飯田建設事務所〕山岸所長

〔長野県〕日向健康福祉部医療推進課企画幹（説明のため）

〔長野県立病院機構〕平林事務局長・瀬戸事務局経営企画課長補佐（いずれも説明のため）

〔飯田市〕松尾企画課長・細田リニア推進課長（いずれも説明のため）

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕桂消防長・関島消防次長

〔飯田環境センター〕米山事務長

【事務局】渡邊事務局長・吉川事務局次長・塚平事務局次長補佐兼企画調整担当専門主査・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・片桐庶務係主事

2 広域連合長挨拶

今年は天候不順で、全国的に大雨等に見舞われているが、幸い当地域では大きな災害が起こっていない。そうはいつても、いつ起こるかもしれない風水害への備えは、秋の台風シーズンにおいても必要であると思っている。

前段の会議で豊丘村長の話を聴き、飯田市にも広域連合にもお金がないことを再認識させられたが、そういうときこそ知恵を絞り、変化に対応できる広域連合でありたいと改めて思った。

3 協議事項

(1) 長野県立病院機構第二期中期目標（素案）について（資料1）

…資料による説明（長野県健康福祉部医療推進課 日向企画幹）

県立阿南病院が独立行政法人として平成22年にスタートして、今年が5年目となり、第1期の目標が終わろうとしている。現在、県では来年度から5か年の第二期中期目標を作成しており、その素案をまとめたので、ご意見等をいただけたらということで参った。

資料1枚目では、県立の5病院について、独立行政法人となってからの4年間の評価をまとめた。平成22年の独法化の一つの契機となった「医師・看護師不足」という課題に対し、医師については引き続き難しい部分もあるが、看護師・医療技術職員を中心に約250名の職員が増えた。増えた職員分は直接医療サービスの向上に繋がっていくため、県民に対するサービスの向上が図れたと評価している。阿南病院においては、平成25年3月に免震構造の本館棟がオープンし、救急対応の向上も図られている。さらに、超高齢地域を支える在宅医療への対応も行ってきた。

財務については、引き続き運営費・負担金という形で県から入っているが、従前に比べ黒字化となり改善されてきている。

今後の課題としては、国で実施される医療制度改革への対応、進行する人口減少への対応、引き続き残っている医師の確保、4月に開校した「信州木曾看護専門学校」における人材育成への課題、病院機能の更なる向上等が挙げられる。

資料2枚目は県立阿南病院についてのもの。下伊那南部地域を医療圏としているが、へき地医療・在宅医療・救急医療等で力を発揮していただいている。免震構造を備えた地域中核病院として、85床で再スタートしている。第2期中期計画に向けての課題と対応について、①の今年4月からスター

トしている地域医療総合支援センターの充実では、へき地医療の研修センターであると同時に乳児健診等の受託もしながら、研修センター的な位置付けを更に充実させていく予定。②リハビリの充実では、リハビリに関係するスタッフを増やしており、在宅訪問リハビリも充実を図っていこうとするもの。電子カルテを昨年導入し、信州メディカルネットにも接続し、更に地域ニーズに応えた業務をしていく方向である。

資料3枚目は第2期中期目標のポイントである。県で目標を策定後、それを県立病院機構に示し、機構が具体的な中期計画を作る。その計画が知事に認可されれば実行に移される。第1期からの最も大きな状況変化として、今年6月の「医療介護総合確保推進法」の制定により、地域包括ケアシステムの構築が進められていく。それらを踏まえた第2期目標のポイントとして、病院経営については第1期からの継続性を大事にしながらも、新しい変化に対応していこうということで資料のアンダーライン部分が大きな特色になってくる。特に大きな柱としては、地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進や、地域の医療、保健、福祉関係機関との連携等が挙げられる。

今後のスケジュールについては、この素案についてのパブリックコメントを今日から10月中旬まで実施する。その意見を踏まえ、11月県議会定例会に議案として提出する。

【質疑】

・「信州型総合医」とは何か。

→（日向）色々な診療科目に対応するための総合医というものがあり、全国各地から病院に研修を受けに来てもらうが、「総合医を目指すなら長野県に」ということでPRをする意味と、全国1位の長寿県であることから、食育等も含めて長野県の売りの一つにしたいとの理由で「信州型」としている。

・電子カルテについて、我々が持っているネットワークと県立病院のシステムが違う。そこをうまく合わせられないのか。

→（平林県立病院機構事務局長）電子カルテは、情報が漏れないという位置付けの中で病院単独で運用されている。しかし、地域の診療所や福祉施設等との情報共有が必要ではないかという話や、飯田市がメインになって作っている地域連携システムに、一緒に乗っていったらどうかという提案が来ている。機構本部としては、信州大学をメインとした「信州メディカルネット」の中で、県内全域の医療機関と連携を図っているが、更にプラスアルファのシステムということになるため、今後検討していきたい。

(2) 大学院大学の設置可能性調査事業について（資料2）

…資料による説明（飯田市企画課 松尾課長）

飯田市では、当地域での高等教育機関の設置検討に資するため、大学院大学設置可能性調査に着手することとなった。本調査については、南信州広域連合を中心とする当地域での検討を踏まえる中で、配付資料にあるとおり、「模擬大学院大学の試行」を通じ、大学院大学という形態から可能性を産み出していこうとする調査と、産業センターが事務局となっている「デザイン系大学院大学を考える会」と協力しデザインの持つ可能性を広く発信する業務、この双方を一体的に行うことにより、高等教育機関設置の可能性を見いだしていこうとするもの。業務委託先として、東京にあるデザイン分野を教育研究する事業構想大学院大学を予定。補正予算の対応としており、現在開会中の飯田市議会において、委員会でのご理解を得ているところである。

【意見】

・中心市がその方向で研究することは高く評価したい。市議会議員の皆さんにもそのことをお伝え願いたい。

(3) JR 飯田線活性化期成同盟会事業 イベント列車の実施について（資料3）

…資料による説明（飯田市リニア推進部 細田リニア推進課長）

平成25年4月からの駅無人化等を踏まえる中、JR飯田線の利用促進、駅を活用したまちづくりを進めること、更にはリニアの整備効果を下伊那全域に波及させるためにも、飯田線の積極的な利用や活性化が必要になってきている。こうした状況を受け、飯田線利用促進協議会を発展的に解消する形

で「飯田線活性化期成同盟会」を立ち上げさせていただいたことはご承知のとおり。官民挙げて飯田線の活性化に取り組むということ、更には南信州地域として取り組む契機としてこのイベントを行いたい。三遠南信地域連携ビジョン推進会議の後援をいただいている。

この事業については、県の元気づくり支援金をいただくと共に、長野県永久観光大使の峰竜太さんをお招きする。内容については資料に付けたチラシのとおり。今後、プレスリリースや各町村へのチラシの配布を行いたい。

【質疑】

・質疑ではないが、伊那大島駅を活性化したいということで、県の元気づくり支援金をいただき、プラットホームへ花を植える計画を立て、飯田支局と話を進めてきた。しかし、駅舎内ということならJR 東海に委託料を払い、JR が実施しなければ駄目だという返答であった。しかも見積は3倍であったため、事業を変更し、駅の外にのみ飾ることとなった経過がある。期成同盟会でJRに言うべきことであるが、そんな事例があったことだけ承知願いたい。

(4) 基本構想・基本計画の策定について（資料4）

…資料による説明（塚平次長補佐兼企画調整担当専門主査）

これまでに7回の委員会を開催してきた。今回の基本構想基本計画では、これまでの計画とは組み立てを若干変え、リニア・三遠南信という大きなインフラを活かす、あるいはそれに備えるという視点からポイントを絞って、あるいは強調した構成にという考えの基に練ってきた。「基本構想の骨子」をまとめることができたので説明させていただく。

1 ページ目は前提とする考え方。これまで広域連合が行ってきた事業、事務の共同化、地域が一体となって歩んできた経過等が背景として記録されている。また、注目の集まる人口減少問題について、国においては様々な検討が模索され実施されようとしている現状、これに対し当地域としては、広域連合を基盤として対処していこうと考えているが、大きな問題であることから取組を強化する必要があると考えている。こうした視点からリニアや三遠南信を捉えると、交流人口を増大させ、多地域居住へと繋げ、最終的には「定住促進」に進めていくことを構想の大きな柱に据えた取組を推進していきたいとまとめた。具体的には、内発的な取組を継続、強化するとともに、地域外出身者の当地域への多地域居住を推進し、定住促進＝担い手の確保を図りたい。

2 ページ目からは、地域の将来像における一考察という形でまとめた構想の骨子。当地域の多様性に着目し、地域の持つ多様な資源や機能、可能性の中から、リニア・三遠南信時代を見通し、特に取り上げたり相互に関連させた活力ある地域づくりの一助としたい分野をピックアップし、今回は5つに集約した。

3 ページ目からは集約した5つの要素についての説明。

- ①地域の多様な自然的・社会的・文化的環境に着目した多地域居住の推進による地域づくり
- ②地域の多種多様な芸術・文化的資源、教育環境を活かした地域づくり
- ③地域のスポーツと保健・健康の促進に資する環境（機能）に着目した地域づくり
- ④地域の多様な環境（機能）を活かした新たな産業振興、誘致による地域づくり
- ⑤地域の多様性を活かした新たな機能（研修・会議機能）の創出による地域づくり

この5つの要素を繋ぐ柱、新たな地域振興の核として「定住促進」を据え、各要素を相互に連携させ、より一層多様で魅力あふれる地域づくりを推進する。6 ページの上段に、これらを形にしたものを載せた。持続可能な地域づくりと、その核となる定住促進を推進していくために、圏域の14市町村が役割分担し、連携して取り組み、実現していく。

8 ページには「基本構想・基本計画」の目次（案）、9～10 ページは「わがまちのベストテン」という名称を付けているが、リニア将来ビジョンにある「守るべきもの、備えるべきもの」の基礎となるもの。構成市町村に住む策定委員それぞれが誇りに思う居住地域の自然、景観、文化、芸術、暮らし、食など選定していただいたものをまとめた。今後の策定委員会では、基本計画に関わる部分、リニア将来ビジョンの具体化等をまとめ、連合会議においてその都度報告をしていく。

続いて、連合会議前段の各部会において意見集約を図ったので、その報告をさせていただきます。

(総務・文教・消防部会における意見 吉川次長説明)

・横文字表記は住民にとってわかりやすいのか、策定委員会及び連合会議での意見をよく諮った上で決めて欲しい。

・構成市町村にとっては、各自治体の振興策が最優先になる。その上での広域の連携であり、計画の中で色々書きすぎるのは困る場合が出てくる。逆に、協力できる具体性を計画の中で示さなければ、画に描いた餅になってしまうので、このバランスをよく考えてほしい。

・圏域内での人口移動も今後出てくると思われるため、市町村ごとの役割分担にも配慮していく必要がある。

(建設・産業・経済部会における意見 秦野次長補佐説明)

・様々な取組に先行して、「観光」がまず必要ではないか。

・ストロー効果は既に言い尽くされているため必要無いのでは。首都圏と当地域では人口規模が違うため、こちらから出て行く人に着目するより、大きな人口が交流してくるといった観点を持つべき。

・関東の人に、南信州を知ってもらう取組が必要。

(環境・福祉・医療部会 塚平次長補佐説明)

時間の関係で、説明を行ったのみであったので、この場でご意見を。

【質疑・意見】

・情報伝達には分かりやすさが必要。色々な層に分かりやすくし、やたらに横文字を使わないのが基本である。

・もっと大きな問題（増大する医療費等）に対する取組も考えていくべきではないか。

→(渡邊局長) 具体的にどのようなことが盛り込めるか検討し、この場に改めて相談させていただく。

・どこかに「伊那谷」、「上伊那」、「木曾」といったような広域的な文言を入れないのか。連携を考えていかないと、南信州だけでは難しい問題も出てくると思われるが。

→(渡邊局長) 今日の段階は骨子ということ。目次(案)の中にある、例えば「総論」等でそういったことは書いていかなければと思っている。

【結論】大きな方向性としては良い。意見があれば事務局で随時受け付ける。

(5) 映画「望郷の鐘」への負担について (資料5)

…資料による説明 (渡邊事務局長)

これまでの議論を集約して、このような形で進めたいという確認。具体的な提案事項としては、広域連合として制作支援のための負担金 300 万円を支出する。それについては平成 26 年南信州広域連合議会第 2 回定例会に補正予算案として上程し、議会の同意を得る。財源は広域連合内でやり繰りをし、構成市町村に新たな負担は求めない。

支出の理由としては、阿智村長から改めて文章による依頼をいただいたこと、内容が当地域の歴史や平和の大切さを学ぶ点で公共性があると考えられること、平成 24 年度に満蒙開拓平和記念館建設に際して補助金を支出していること、阿智村としても一定の財政支援をしていること等である。

その他として、新年度の予算編成に合わせ、今後このような企業、NPO、実行委員会等が行う映画制作やイベント等に対する支援について、負担金、補助金といった名目の如何を問わず、場合によっては労力の提供もあり得るが、そういったものへの対処を要綱という形で整理をしていきたいと考えている。

…追加資料による説明 (熊谷阿智村長)

長きにわたりご迷惑をお掛けした。追加資料の概要を説明させていただく。今後の日程や収支計画等が記載されている。映画は 11 月中旬頃完成予定。11 月 24 日に阿智村中央公民館で有料試写会を実施する。12 月 6 日から千劇、長野、松本で上映開始。13 日からはトキワ劇場でも上映され、年内一杯上映予定。1 月中旬から全国ロードショー開始。この辺りで各市町村単位で希望があれば上映させていただく。すべて券が必要となる。

収支計画について、本映画の制作費は 1 億円。映画会社が 8 千万、地元で 2 千万。この内訳は券の売上や協賛金・負担金の合計である。今回の映画は DVD 化して、学校や各種団体に貸したりしながら

長い期間をかけてやっていくとのこと。8月31日現在、協力券が7,845枚販売で約800万円。協賛金・負担金を一口10万円で企業等から受け付けている。資料裏面が映画のシナリオである。

各市町村には券を買っていただき、枚数によって何回ということ上で上映する。広域から負担金ということをお願いしているのでもよろしくお願ひしたい。

【質疑】

・映画の時間はどのくらいか。券を何枚購入すれば地元上映可能か。

→時間は70分～90分で作成している。地元上映は、1,000枚購入(100万円分)で4回可能。50万円
で2回、30万円で1回。

・既に購入する約束をしたチケットの対応は。

→阿智村でもう一度話に伺うので、それまで保管していただきたい。

【結論】 広域の方向性は事務局提案の通りとする。試写については、どのような方法が可能か阿智村
長に検討していただく。各市町村の対応は、各々阿智村長と相談する。

(6) 平成26年度南信州広域連合職員採用試験の実施について(資料6)

…資料による説明(吉川事務局次長)

8月25日から申込受付をしており、一部事後報告となる。行政上級の職員を1名採用予定で、実施要綱を定めた。10月3日まで受け付けており、10月26日に第1次試験を実施。受験資格としては、来年4月1日現在で22歳～35歳の方。それ以外は要綱を参照。1次試験は、基本的に飯田市の方法に準じて組立てている。2次試験は11月28日を予定している。面接官として、正副連合長、総務部会長、副管理者、事務局長、消防長。申込書類については、事務局ほか各構成市町村の窓口にも置いていただいている。

【質疑なし】

(7) 長野県議会農政林務委員会現地調査時における陳情について

…口頭説明(秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

9月5日に行われた農政林務委員会の現地調査についての報告。陳情については、8月の連合会議で確認された内容を、総務部会長である平谷村長にご説明いただいた。下伊那山林協会会長として、大鹿村長が出席されている。

【質疑なし】

(8) 後援依頼について

…資料による説明(北原事務局次長補佐兼庶務係長)

・第15回EMCシンポジウムIIDA2014(南信州・飯田産業センター)…連合長決裁済み

日時:平成26年10月30日 13:00～ 31日 9:15～ 両日シルクホテル

・第39回歯と口の健康を守る郡市民大会(飯田下伊那歯科医師会・飯伊地区包括医療協議会)

日時:平成26年10月18日 14:00～ 鼎文化センター

・認知症、高齢者虐待防止フォーラム(長野県飯田保健福祉事務所長)

日時:平成26年12月6日 13:30～ 鼎文化センター

【質疑なし】 後援が承認された。

(9) その他

…渡邊事務局長説明(資料9)

過日お諮りしたが、南木曾町での災害に対し10万円のお見舞いを差し上げた。そのお礼状が来ているので参考に御覧いただきたい。

…泰阜村長から

北信越国体が5年に1回、長野県の当番になる。その際、飯田市では弓道競技が行われていて、飯田

市から40万円の補助金をいただいている。来年か再来年が長野県の当番だが、スポーツ振興という趣旨からすると市ではなく広域で出すようなシステムにしたらどうか。県下縦断駅伝についても、郡体協、飯田市体協、町村会等色々な団体が出している。飯田下伊那チームなので、広域連合で一本にできないか。補助金等の要綱を検討する際に、頭に入れておいていただきたい。

4 今後の日程

10月10日（金） 広域連合会議（天龍村）

5 閉会…15:12